

岸 大介

目黒区議会議員

無所属

活動報告

Vol.18

2024.夏

「With You」

区民をないがしろにする“無責任”と闘う！

カインユー

https://kishidaisuke.com

1月4日、目黒・駒場東大前・都立大・祐天寺各駅に区議会議員選挙活動を行う。20万円を超える義援金をお預かりし、送金しました。

岸 大介

目黒区議会議員

無所属

活動報告

Vol.18

2024.夏

「With You」

区民をないがしろにする“無責任”と闘う！

カインユー

https://kishidaisuke.com

1月4日、目黒・駒場東大前・都立大・祐天寺各駅に区議会議員選挙活動を行う。20万円を超える義援金をお預かりし、送金しました。

区民をないがしろにする“無責任”と闘う！

目黒区議会議員

無所属

岸 大介

岸 大介 プロフィール

1973年 長内医院にて生まれる

1986年 トキワ松学園小学校 卒業

1992年 秀明学園高校 卒業

1998年 東北芸術工科大学 デザイン工学部 卒業

2003年 NY市立大学ハンターカレッジ 経済学部 卒業

2005年 コロンビア大学 SIPA国際・行政学大学院 卒業 行政学修士

2007年 会社員、政党職員(本部国際局・都議会政策調査会等)を経て

2017年 衆議院議員(元復興副大臣、元文部科学大臣)政策担当秘書

2018年 帰郷後 地域の活動を始める。

2019年 目黒区議会議員 初当選(～現在2期目、活動中)

その他

防災語学ボランティア(英語)、防災士、目黒消防団所属 機関員(特殊技能団員:大型車・特殊重機・危険物取扱い)

個人・嗜好

家族:妻、息子、ネコ

趣味:社交ダンス(ジルバ)、Perfume(アーティスト)、四国遍路、城址城跡・古銭湯巡り

好きな食べ物:蕎麦、カレー、牡蠣、無花果、純米酒

好きな歴史上の人物:仁科盛信(武田勝頼公実弟)、河井継之助(長岡藩家老)

好きな言葉:明日、世界が減びるとしても 今日、君はリンゴの木を植える

連絡先:岸 大介

住 所:〒152-0033 目黒区大岡山1-13-10-1F

T E L: 090-3360-3286 F A X: 3724-1941

Email: info@kishidaisuke.com

個人献金のお願い

私の考えに、お力をお貸しください！

貴方様のご献金をお待ち申し上げます。(1口/5000円より)

振込先

郵便振替 00120-6-487566

みずほ銀行 大岡山支店 普通 2339974

https://kishidaisuke.com

ごあいさつ

平素は岸 大介の議会活動にご支援、ご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

会派(最大)を結成して以来、初の予算特別委員会に臨み、令和6年度の予算計画が可決されました。

一般会計にして1300億を超える、区政史上最大規模であります。時に車輪の両輪として比喻される「議会」は、「行政」とは別の組織形態を持ち、審議権・議決権を使いながら、行政側に提案された計画を、主に予算・決算を通して様々な視点からチェックするという機能を持ちます。頭では分かっていたが、最大会派を為すという事は、議長、職を輩出するという事でもあり、また「可決」する事で、その「予算」に対して議会として責任を負うという事でもあります。このリアルに対しては、これまで以上に大きなストレスを感じました。会期中は確かに疲労困憊致しましたが、新しい時代に向けて明るい兆しも見えてきたと思っております。

本日、リーフレットをお届け致します。岸の活動報告の一端とさせて頂ければ幸いです。勝手ながら、貴方様のご多幸を祈念致しております。

令和六年夏

目黒区議会議員

岸 大介

3つの基本姿勢

子供世代にツケを残さない！ スジを通す！ フェアな世をつくる！

活動報告 春の7大トピック

●春の議会 予算委員会にて会派総括質問・各款質問に立ちました。



Youtube岸大介チャンネルで会派総括質問の動画を公開しておりますので、ご覧ください。

●能登半島地震への被災地支援の為に会派募金活動・議会募金活動を行いました。



●節分の豆まきにお誘い頂きました。



八雲氷川神社節分祭and豆まき2年遅れの年男としてお誘い頂き、誰よりも元気に豆をまく“キシ”

●新年会や叙勲他、“ハレ”の日のお誘いを頂きました。



碑文谷警察署武道始式初めてお邪魔する 迫真の演舞！凄い！

●会派視察で名古屋市・蒲安市・東海市に伺いました。



●MIFA国際交流フェスティバル



4年ぶりの開催、アラビア語で名前を書きました

●地域の防犯パトロール



地域のチビッ子達と防犯パトロール！！

WEB・SNSでも活動を発信しております

Web

Facebook

Instagram

Youtube

春の議会 予算委員会にて 会派“総括質問”を行いました。

続いて各款での質問を行いました。(全72分)

経済・区財政事情一般についての総括質問

区税収入の増加、財調交付金や各種交付金等の増もあり、歳入に関しては一般会計で1300億円を超え、区史上最大の予算総額となっている。昨今の株価高傾向等からすれば、企業収益が高水準にあり、景気の上向き局面であるとされるが、これら数値の上で今“景気が良い”と認識なされているのか？

区民一般、中小個人事業を経営する側からすれば、モノの動きやサービス物価に目立った変動は無い。直近の“中小企業の景況”でも概ね同様の認識。四半期別の実質GDPでも2期連続でマイナス成長をしており、幅は縮小しているとは言え懸念する所。個人住民税がプラスの基調にある事からみれば、堅調な企業収益の伸びを背景とした、給与所得者へかかる区税収入が釣り上げられる一方で、中小の事業所では、売上げの落ち込みから回復していない実態を見る。中間層を分断する形で、生業によっての収入格差の二極化が進んでいると考察する。昨今ではモノやサービスの値上げがなされており、反対に賃上げや売上げが、日常生活への費用の高騰に全く追いついていない。名目ではなく実質の所で区民一般の生活が直撃されているが、この“好景気”と、実感との乖離は認識しているか？ その上での予算編成と認識してよいのか？

区長 答弁⇒国の月例経済報告による所として、景気は穏やかに回復基調であると認識する。先行きについては十分留意する必要があると認識する。

企画経営部長 答弁⇒普通徴収の納税者数の増減の推移他、様々な要因が考えられる為、二極化が進んだとは一概に言えない。とはいえ、景気動向と賃上げとのギャップが見られるのも事実。生活者支援、事業者支援等の物価高騰対策を講じてゆく。

拉致・人権政策について

私は国民として当然の事だと思いい、ブルーリボンバッチ・ブラウンリボンバッチを常に胸にして活動をしているが、秋議会にて採択された、2つの案件「拉致問題啓蒙に関わる陳情」・「北方領土・竹島の領土の啓蒙に関する陳情」に関して、今年はどう様な施策に繋がってゆくのか？

昨年12月には、「北朝鮮による人権侵害問題啓発週間」があったが、“陳情”の求める、公共施設で啓発を促す仕掛けは無かった。区報には1行のみ記載があったものの、これを前進と言えば前進だが。小泉訪朝から22年、国と国との交渉が止まってしまっている中で、拉致被害家族が生きて再会という事で考えれば、残されている時間は限られている。もし自分の家族が、何のいわれも無く、一方的に拉致されて、どこかに連れ去られてしまったら、自分の事として捉えたらどうか？想像できない程の怒りと、悲しみ、喪失感にさいなまれるに違いない。一説には200人とも言われるその数、またそれらとずっと闘っておられる家族が居る。1人の人間

として、我が家、家族の問題として、この事改めて頂きたいと願うもの。その為には、基礎自治体からこそ世論を、改めて醸成してゆく事が肝要だが。

《再質問》 怖いのは、日本国民が連れ去られているという事実があるにも関わらず、また日本固有の領土が不法に占拠されているという認識が、今薄れてしまっている。それが継続している。また、これまではNPOや、ボランティア等の有志の方々に任せっぱなしであった事に違和感を禁じえなかった。昨今、あらゆる文化施設等で啓発の為の、演劇や講演会、映画会が開催されており、品川区では小学校の授業の一環にも繋がっている。理不尽の連鎖を早く解消する事に寄与する為にも、目黒区行政として可能な最大の事は何か？

人権推進課長 答弁⇒拉致問題は重大問題であり、国の責任において解決すべき課題であると認識。公式Webに掲載して広く周知を図っている。新年度においても、1日も早い解決へ向けて、国や都と連携しつつ、継続して啓発に繋げたい。引き続き他の自治体の取り組み状況も研究したい。

東京科学大学との公民連携に関して

東京工業大学だが、東京医科歯科大との統合が成され、今年10月1日に新法人として、「東京科学大」が開学する。本部は当面区内に置かれるとの事。統合に伴う整理、包括的な連携はどうか？ 地域社会に対しての影響を伺う。

新法人が船出する事は基より、生徒数にして600人の東工大付属高校（現港区）も26年の4月に越して来るとの事。緑ヶ丘駅周辺の開発等は一段落しているとの認識は、法人統合の話が今般の形に纏まる以前の話であった。地域環境が一変するにあたり、認識を改める必要があるのではないか？ これまでも東工大の中には食堂が足りないという事が言われていた。大岡山の商店街群が大学関係者の台所の役割してきた側面は続くとして、間口の狭い緑が丘駅周辺はまだ伸び白があると思うが、如何か？

企画経営課長 答弁⇒本年満了であった包括連携協定を向こう5年間更新した。両法人側も積極的な姿勢であったと認識する。科学技術や高い医療の専門性は当然の事ながら、地域社会への貢献に期待できると考える。都市計画観点での街づくりという意味では、緑が丘駅周辺は地区生活拠点として、比較的早い時期に実施済である。付属高校の移転に伴う町の変化には緊張感をもって注視したい。

国際交流に関して

MIFA国際交流フェスティバルがパーシモンホールで開催された。以前だったらもっと多くの大使館、友好協会や、学校はじめ、区内在住、在勤、在学の外国人と交流が出来た。コロナ禍が明け、区内在住外国人も1万人を超え、新たにミクロネシア大使館も区内に越して来た。中韓姉妹都市との3区間交流や、ウクライナに心を寄せることも大切だが、地域に溶け込む外国

の方々との隣人としての交流も広げていく事が、我が国・わが町の良さ、或いはその反対も含めて、“学びと気づき”を得る機会となる。真の国際交流・貢献に繋げて頂きたい。

インシデント発生時の教育指導方針について

小中学校におけるインシデント発生時におく考え方・行動指針を伺いたい。相手が大人でないだけに、学校運営には配慮が必要だし、最重要と認識している。また時代の推移として、学齢期の児童・学童でさえスマートフォンを持ち、多感な時期に、情報氾濫の中に突入してゆかねばいけない現実には懸念している。先般、近隣の小学校で、インシデント事象の後、救急搬送されたという報告を伺ったが、学校施設から救急搬送されるという事、概してどの様な基準が設置されていて、年間どれくらい発生しているのか？ また教育現場に横たわるインシデントへの対応としては、どの様な方針や制度化がなされ、或いは備えとしているのか？

《再質問》 誰々ちゃんがケガした、入院した等という情報は、時間と共に尾ヒレがついて、保護者の間に伝わってゆくもの。また昔であれば、問題を起こした生徒は廊下に正座させられたり、立たされたりしたものだが。そういう顛末が記号となって、子供たちの脳裏に刷り込まれ、また学びとなったもの。朝礼で注意され、職員室に呼ばれたり、三者面談に呼ばれるのは恐怖であったし、また保護者会を開催されて事態の整理等が図られたもの。

質問としては、物事が起きた際に、人の噂も75日間、黙って待つという事ではなくって、“終息”した意味合いの儀式を、頃合いを見計らって記号化して収めるというケジメは、今の様な時代だからこそ、必要ではないか？腫物を触るかの様な対応、触れない空気感が正しいのかどうか、疑問を持つ。出来事はできる範囲で共有し、一つの事象のピリオドを打つ事、終息したら公表する事。それが関係者や、不安を感じても、時に放置されがちな地域の方々の為にも、儀式の場、仕切り直し、“ノーサイド”は必要不可欠と思うが、如何か？

教育委員会 答弁⇒各施設では、教職員が的確に判断し円滑に対応出来る様に、学校保健安全法に基づく、「危機管理マニュアル」を作成している。またそれに伴っての訓練もしている。令和5年度に救急搬送を要請した件数は3月12日時点において、幼稚園こども園では0件、小学校は8件、中学校で4件である。重大な事件・事案に関しては、速やかに区長・議会、教育委員会に情報提供を行っている。その基準については今後も、調査・研究する。重大事態の情報共有と終息の公表は、当人や関係者の命と人権、個人情報・プライバシーを守るという事を最優先としている。昨今はSNS等の拡大による被害もあるが、学校は子供達を守る立場であり、情報の取り扱いや公表には慎重にならざるを得ない。個々の事案の状況を公表の基準等に照らし、都度判断・対応してゆく。